

第1問【カール5世×フランソワ1世】

カール5世とフランスの争いに関する記述として正しいものはどれか。

- A. フランソワ1世とカール5世の対立はイタリア戦争を契機に始まり、ローマ教皇庁の分裂へ発展した。
- B. パヴィアの戦いではフランス軍が勝利し、カール5世はイタリア支配権を放棄することになった。
- C. フランソワ1世はスペインとフランスの王を兼任し、カール5世に対抗した。
- D. フランソワ1世はカール5世との抗争のさなかでオスマン帝国と同盟を結び、包囲網を破った。

✔【正解】D

■ 解説: フランソワ1世はハプスブルク包囲網を打破するため、異教徒のオスマン帝国と同盟を結んだ。

- ✘ A: イタリア戦争は教皇分裂とは無関係。分裂は14世紀のアヴィニョン捕囚が関係。
- ✘ B: パヴィアの戦いではフランスが大敗し、フランソワ1世が捕虜となった。
- ✘ C: スペイン王カルロス1世が神聖ローマ皇帝カール5世となり、フランスを挟撃する形となった。

【第2問】【中世～近世の国家の統治形態】

中世から近世にかけての「国家の統治形態」の転換に関する記述で正しいものはどれか。

- A. 絶対王政では議会による国政審議が拡大し、特権商人の権利拡大も進んだ。
- B. イギリスではテューダー朝以降、国王直属の官僚機構による統治が拡大した。
- C. 神聖ローマ帝国ではカール5世が皇帝権を強化し、すべての領邦を直轄支配した。
- D. スペインのフェリペ2世は全国三部会を通じて議会主権を確立し、貴族層を統合した。

✔【正解】B

■ 解説: イギリスのテューダー朝は、王権による官僚制統治を進め、絶対王政の特徴を備えていた。

- ✘ A: 絶対王政では議会の権限は縮小し、王権強化が進んだ。
- ✘ C: カール5世の支配下でも領邦の分立は続き、皇帝権の統一支配は未達。
- ✘ D: フェリペ2世は身分制議会を無視して、議会主権は確立していない。ちなみに全国三部会はフランスの身分制議会。

第3問【イギリス革命】

イギリス革命期の政治的变化に関する記述で正しいものはどれか。

- A. ピューリタン革命では国王派がクロムウェルの指導で勝利し、チャールズ1世を処刑した。

- B. 名誉革命ではオランダのウィレムが招かれ、権利章典により責任内閣制が確立した。
- C. クロムウェルは共和政を否定して護国卿に就任し、実質的に独裁的な統治を行った。
- D. 権利の請願では国王の信仰の自由が保障され、プロテスタントが否定された。

✔【正解】C

■ 解説: クロムウェルはイギリス=オランダ戦争を開始すると、共和政のもと護国卿に就任し、軍事独裁的な統治を行った。

- ✘ A: 国王派は敗北し、チャールズ 1 世が処刑されたのは議会派の勝利による。
- ✘ B: 名誉革命により立憲君主制が確立したが、責任内閣制は後の発展段階。
- ✘ D: 権利の請願は国王による専制抑制が目的であり、信仰の自由の保障は含まれない。

第 4 問【絶対王政期の思想と政治】

次の文章の正誤について正しいものを一つ選べ。

- A. ヴェルサイユ宮殿はルイ 14 世によって建設され、絶対王政の象徴となった。
- B. ホブズは社会契約説に基づき議会主権を主張し、王政廃止を正当化した。
- C. 名誉革命によりチャールズ 1 世が処刑され、共和制が確立した。
- D. ロックは革命権を否定し、国家の安全のために絶対王政を支持した。

【正解】A

【解説】

- ✔ A: ヴェルサイユ宮殿はルイ 14 世が建設し、王権の威光を誇示する象徴とされた。
- ✘ B: ホブズは王権神授説を擁護し、議会主権を否定した。
- ✘ C: チャールズ 1 世の処刑は清教徒革命(ピューリタン革命)中の出来事であり、名誉革命ではない。
- ✘ D: ロックは『統治二論』で革命権を肯定し、専制に対する抵抗を認めた。

第 5 問【啓蒙専制君主の業績比較】

次の記述のうち、啓蒙専制君主の施策として正しいものを一つ選べ。

- A. プロイセンのフリードリヒ 2 世は農奴制を廃止し、オーストリアとの戦争に勝利し、神聖ローマ帝国の統一を果たした。
- B. オーストリアのヨーゼフ 2 世は農奴解放を進め、宗教寛容令を発布するなど改革を推進した。
- C. ロシアのエカチェリーナ 2 世はプガチョフの乱を契機に専制を弱め、地方自治の確立に努めた。
- D. フリードリヒ=ヴィルヘルム 1 世は啓蒙思想に共鳴し、百科全書派と交わりながら財政改革を実施した。

【正解】B

【解説】

- ✓ B: ヨーゼフ 2 世は農奴解放や宗教寛容令を実施し、急進的な改革を行ったがいずれも失敗した。
 - ✗ A: 農奴制の廃止や神聖ローマ帝国の統一は実現できていないともに、ナポレオン戦争後のプロイセンの動きである。
 - ✗ C: プガチョフの乱を受けてエカチェリーナ 2 世は農民支配を強化し、専制を強めた。
 - ✗ D: フリードリヒ=ヴィルヘルム 1 世は軍国主義的な財政強化を推進したが、啓蒙思想に共鳴したのは息子のフリードリヒ 2 世。
-

第 6 問【各国の絶対王政の特色】

絶対王政下の各国統治体制に関する記述で正しいものを一つ選べ。

- A. ルイ 14 世は大貴族を軍事・政治から遠ざけ、官僚や商人層に依拠した統治を進めた。
- B. スペインではフェリペ 2 世はベーメンに重税とカトリックを強制したことが大暴動へと発展した。
- C. イギリスのエリザベス 1 世は官僚制を廃止し、騎士階級による地方自治を促進した。
- D. ロシアのピョートル 1 世はドイツ的都市法を導入し、封建貴族の自立を許容した。

【正解】A

【解説】

- ✓ A: ルイ 14 世はヴェルサイユ宮殿に貴族を集め、官僚と常備軍を用いて中央集権化を進めた。
 - ✗ B: ベーメンではなく、ネーデルラント。オランダ独立戦争で敗北し、ネーデルラント北部は失った。
 - ✗ C: エリザベス 1 世は中央集権的な官僚制度を活用し、議会との協調も保った。
 - ✗ D: ピョートル 1 世は封建制を抑圧し、絶対王政を築くために貴族の特権を制限した(ひげ税など)。
-

第 7 問【西欧・東欧の近世の比較】

次のうち、西欧と東欧における国家形成の違いを正しく述べたものを一つ選べ。

- A. 西欧諸国では農奴制が強化され、領主裁判権による農民支配が強化された。
- B. 東欧では市民階級の台頭により議会政治が確立し、ブルジョワジーが伸長した。
- C. 西欧の絶対王政は常備軍と官僚制を基盤に成立し、東欧では貴族の特権が維持された。
- D. 東欧では宗教改革を契機にカトリックが退潮し、宗教寛容な国家制度が実現した。

【正解】C

- ✓ 解説: 西欧は中央集権化、東欧は貴族支配の維持が国家形成に影響した。
- ✗ A…誤。農奴制の強化は東欧で顕著、西欧では逆に緩和されていった。

✗ B: 東欧では貴族支配が続き、市民階級の成長は抑制された。西欧の内容。

✗ D: 東欧ではカトリックの影響が強く、宗教寛容は進まなかった。

第 8 問【ヨーロッパ諸国の海外進出】

ヨーロッパ諸国の海外進出に関して正しい記述を一つ選べ。

- A. スペインはフィリピンを拠点に東インド会社を設立し、紅海貿易を独占した。
- B. ポルトガルは香辛料貿易に加えて奴隷貿易にも従事し、大西洋三角貿易を主導した。
- C. オランダはバタヴィアを拠点とし、香辛料貿易でモルッカ諸島を支配した。
- D. フランスはジャカルタの支配を通じて胡椒貿易を拡大し、マラッカを要塞化した。

【正解】C

✔ 解説: オランダは 1619 年ジャワのバタヴィアに拠点をおき、23 年にはアンボyna 事件を起こし、モルッカ諸島での香辛料貿易を独占した。

✗ A: 東インド会社はオランダ・イギリスが設立、スペインは関与していない。

✗ B: 大西洋三角貿易は主にイギリス・フランスなどが担い、ポルトガルの役割は奴隷貿易のみ関与。

✗ D: ジャカルタ(旧バタヴィア)・マラッカ(16 世紀はポルトガル)はオランダの拠点で、フランスの支配ではない。

第 9 問【絶対王政と植民地拡大】

絶対王政と海外領土支配の関連について、正しいものを一つ選べ。

- A. フランスはカナダにケベック植民地を建設し、毛皮貿易によって大西洋経済を牽引した。
- B. ポルトガルはナポレオン戦争期に中南米の自由貿易圏を確立し、銀本位制を導入した。
- C. イギリスは清教徒革命を機にアフリカ南端を支配し、ケープ植民地を発展させた。
- D. スペインはスペイン継承戦争後に北米進出し、フロリダ購入で勢力を拡大した。

【正解】A

【解説】

✔ A: フランスはアンリ 4 世の時にケベックを建設、カナダに進出し、毛皮貿易を展開して大西洋経済に関与した。

✗ B: ポルトガルは自由貿易ではなく、重商主義的統制を優先していた。ナポレオン戦争中は王室ごとブラジルへ亡命。

✗ C: ケープ植民地はオランダが 17 世紀に建設、イギリスは 19 世紀に奪取した。

✗ D: 大航海時代から北米・カリブ海に植民地を持ち、フロリダはパリ条約で一時イギリスに奪われた。

第 10 問【英仏の植民地戦争とヨーロッパの戦争・条約】

次の記述のうち、17～18 世紀における英仏の植民地戦争とそれに関連するヨーロッパでの戦争・講和条約について正しいものを一つ選べ。

- A. アン女王戦争はヨーロッパでのスペイン継承戦争と並行し、ユトレヒト条約で仏領カナダを英が獲得した。
- B. オーストリア継承戦争と並行してカーナティック戦争が起こり、オーストリアはシュレジエンを獲得した。
- C. 七年戦争では英がプラッシーの戦いに勝利し、1763 年のパリ条約で仏はインドの植民地を喪失した。
- D. フレンチ＝インディアン戦争では英が劣勢に立たされ、カナダを仏に割譲する結果となった。

【正解】C

✔ 解説：七年戦争中、英はプラッシーの戦い(1757)で勝利し、1763 年のパリ条約で仏はカナダやインドの植民地支配権を大幅に失った。

✘ A：アン女王戦争はスペイン継承戦争と並行し、ユトレヒト条約(1713)で英はニューファンドランド・アカディアなどを得たが、カナダ獲得は 1763 年のパリ条約。

✘ B：オーストリア継承戦争とカーナティック戦争は並行したが、シュレジエンを獲得したのはプロイセンであり、オーストリアは喪失した側。

✘ D：フレンチ＝インディアン戦争は七年戦争の北米戦線で、英が勝利し、仏はカナダを英に割譲した側である。